

5Gビジネスデザインワーキンググループ（第7回）へのコメント

令和5年4月26日
株式会社 企 クロサカタツヤ

(1) 資料7-2-1（第5世代モバイル推進フォーラムミリ波普及推進アドホック提出資料（説明資料））について

8～10ページ（ミリ波導入シナリオ）について、対象をミリ波に限定したシナリオとしては適正に整理いただいたものであり、同意します。

その上で、本資料でも一部触れられている通り、3月24日のワーキンググループでも発表の通り、ミリ波を要素の一つとして捉えて他の要件と組み合わせる方法（NR-DCによるスループットと安定性の両立や、ミリ波に割り当てられた帯域の広さを活かしたスライシングの高品質化）について、すでに標準化や諸外国のユースケースの検討が進んでいます。

こうした、いわば「ミリ波の応用」を念頭に置いたユースケースの特定と、その導入によって期待される経済効果、また導入・普及に係る課題について、検討をさらに深める必要があると感じました。

(2) 資料7-3（三菱総合研究所提出資料）について

14～15ページ（研究開発投資）について、現状の研究開発動向を示唆する貴重な分析だと感じました。

その上で、ミリ波をはじめとした波長の短い周波数帯の活用は、6G以降も継続的に取組が必要な中長期的なテーマであることを踏まえ、こうした研究開発動向の内訳、すなわちハード（デバイス等）とソフト（コアネットワーク、オーケストレーション等）の区分、クラウドネイティブとの関係、基地局やRANの構築・運用等に分解し、それぞれの事業者の強みや、この分析に登場していない事業者の詳細な分析が、本ワーキンググループを含めた様々な政策検討の基礎として必要であると感じました。

(3) 今後の論点整理に向けて

前項を踏まえ、条件付きオークションの検討を進めるにあたり、「条件」や「オークションの応札」を満たす事業者について、伝統的な電気通信事業者はもちろん、ロケーションホルダーやクラウドサービスプロバイダ等、様々なステークホルダーを分析し、その将来的なエコシステムについて構想することが、条件付きオークションの意義やその後の電波利用の価値向上につながるように思います。そうした検討を今後ご一考いただければ幸いです。